

目次

はじめに	3
凡例	7
01 年貢の納め時／プロローグ	14
02 喧騒極めた日々／水族館開設準備室時代	18
03 思い知った現場の大切さ／オヤニラミ	22
04 海岸環境守るシンボル／ウミガメ	26
05 子供時代の貴重な体験／サマースクール	30
06 身近な、生きた化石、カプトエヒ	34
07 自然から学ぶ命の実感／中学時代の問題児として	38
08 身に染みた漁師の心意気／スナメリ	42
09 フィールドワークの魅力／オオサンショウウオ	46
10 藻礁魚は水族館屋敷れの的／黄金の小世界	50
11 身近な自然が教師／ヌートリア	54
12 放流は美德でなく環境破壊／移入動物	58
13 闇の向こうに見たものは／南洋紀行 その①	62
14 熱帯アジアで得たもの／南洋紀行 その②	66
15 人工浜での産卵の意義は／カムバツク・ウミガメ	70
16 天然記念物のドジョウを求めて／アユモドキ	74
17 意外な生態を教えてくれた人／イシガメ	78
18 目立たぬ生き物絶滅心配／カスミサンショウウオ	82
19 春告げるクリスタルボディ／シラウオとシロウオ	86
20 干潟の愛嬌者の聖地はよみがえるか／トビハゼ	90
21 4回中3回は観察できる／カメの産卵観察云	94
22 絶滅危惧種といわれ……／メダカ	98
23 国際的ジヨークで大爆笑／海亀国際会議	102
24 ハリマイマイ移植大失敗／デンデンムシ	106
25 生ける化石の敵？／中国大山椒魚	110
26 今時の若くない者のぼやき／喫煙列車	114
27 買う、飼う、前に考えよう／捨てられるペットたち	118
28 パンダ・ヒラメにパンダ・カレイ／パンダ・ブーム	122
29 須磨・高砂・赤穂も魚の名に／私はヒメジ	126
30 食いつ食われつの生態系／オオサンショウウオの産卵期	130
31 若さに任せて打ち込んだ日々／バドミントン	134
32 30年前、偶然だった初繁殖／エラフウミヘビ	138
33 共生関係の、混乱に思い／タナゴとニ枚貝	142
34 毒薄める知恵の数々に思い／フグの季節	146
35 本当は慎重、臆病な生き物／スッポン	150
36 琵琶湖の主、の新人教育／松田の親父さん	154
37 正統派、むき方で美味堪能／シャコ	158
38 抑止力なく密輸後を絶たず／ワシントン条約	162
39 食うまでが学問、と学ぶ／ウナギ	166
40 水のサイクルを正常に／流域委員会	170
41 アイディアの実現は楽しい／調査委員の工夫	174
42 3千万年前から変わらぬ姿／生きている化石	178
43 工夫ひとつで展示様変わり／頼らぬ人寄せパンダ	182
44 人間の利便性が阻む、共生、カメの交通事故	186
45 漁業関係者の協力を感謝／お世話になった皆様へ	190
46 追跡調査の徹底が重要／多自然型河川工事	194
47 生き物好き、貫ける信念／職人として私人として	198
48 謎の生態解明調査なお魅力／オオサンショウウオ	202
49 自然環境教育の中核担う／ゴビウス	206
50 生き物好きのユメ、ウツツに／姫路市立水族館	210
あとがき／人生のロスタイムを突っ走りつつ	214
新聞掲載日	219
索引	222
プロフィール	223